

くるまざらボ

KURUMAZA-LABO



事例を知れば備えが変わる！
大切な人に伝えたい大規模災害の「超リアル」
～災害時の「食事」「栄養バランス」「子育て」～

普段の生活では想像もつかないことが起きる、それが大規模災害です。

命を守るために必要なのは、防災グッズのようなモノだけではなく、その時災害の現場にいた担い手にしか語れない「超リアル」でした！

今回は、災害時の「食事」「栄養バランス」「子育て」を切り口とした超リアルを、二人の担い手から引き出してお届けします。

ぜひ参加して、大切な人に伝えてください。

9月21日（火）20:00～21:30

感染症、アレルギー、夜泣き…。
子どもに降りかかる災害時トラブルを乗り越えてきた
高橋 志保 さん

「子育て家庭に本当に必要な備え」



9月29日（水）20:00～21:30

発災直後、50の避難所にて4万人に炊き出しをしてきた
島田 昌幸 さん

「本当に必要な非常食」



《過去のくるまざらボ 参加者の声》

防災対策は「当事者が本気にならないと続かない」という言葉が心に残った。
現場にいた人しか語れない生の声を届けることで、本気になれる人が増えると思う。

（自分が手がけている防災講座では）水・食糧の備蓄とお薬手帳までは啓蒙できていたが、（今回のテーマの）災害時の衛生対策については知らなかったため、非常にいい勉強をさせてもらいました。

災害の現場の「超リアル」に触れることは、防災に自分ごととして取り組むための大きなきっかけになりそう。

「くるまざラボ」～災害時の「食事」「栄養バランス」「子育て」～ 各回内容&講師の詳しいご紹介

9月21日（火）20:00～21:30

感染症、アレルギー、夜泣き…。子どもに降りかかる災害時トラブルを乗り越えてきた 高橋 志保さん 「子育て家庭に本当に必要な備え」



主婦 高橋 志保（たかはし しほ）さん

東日本大震災の際、3歳の娘と3ヶ月の息子と被災する。
津波を見たショックで毎晩繰り返される夜泣き。
地元での避難生活中、息子がロタウイルスに感染し、病院に救急搬送。
仙台へ避難してからも、娘は体調不良で毎日点滴を受け、息子には食品アレルギー発覚。
子どもに降りかかる災害時トラブルの数々を乗り越えた経験を持つ。

何もかもが足りない発災直後の状況の中、子育て真っ最中の高橋さんが、次々に降りかかる災害時トラブルを一体どのように乗り越えたのか…！？

自身二児の父でもある所長・佐野が聞き手となり、被災生活における育児のリアルを紐解き、子育て家庭に本当に必要な備えを、育児の当事者の一人として探っていきます。

また当日は、高橋さんの地元・宮城県南三陸町から現場見学を兼ねてライブ中継いたします。

9月29日（水）20:00～21:30

**発災直後、50の避難所にて4万人に炊き出しをしてきた 島田 昌幸さん
「本当に必要な非常食」**



株式会社ワンテーブル 代表取締役CEO 島田 昌幸（しまだ まさゆき）さん

大学在学中に教育ベンチャーを創業。地域おこしイベント事業を始める。
2007年から国土交通省認定の観光地域プロデューサーとして活動し、数々の地域プロデュースを手がける。企業のイベント、商品・サービス開発、事業開発などのプロデュースも多数手がけ、2011年には中小企業初の日本CSR大賞準グランプリを受賞。
東日本大震災に際しては、社を挙げて宮城県内の避難所に炊き出しや物資などの緊急支援を展開した。

自身も被災しながら、炊き出しなど緊急支援に全力で取り組んだ島田さん。

その経験がワンテーブル社の事業にどのように活かされているか？

また、そこで得た知見から開発された非常食の特長とは？

島田さん同様、東日本大震災において緊急支援にあっていた所長・佐野が聞き手となり、当時の状況を追体験しながら、この辺りの秘密を解き明かします。

また当日は、宮城県多賀城市・株式会社ワンテーブル本社工場より、工場見学を兼ねてライブ中継いたします。

《聞き手》

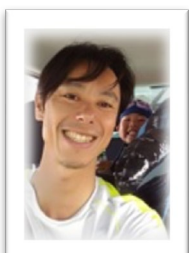


『自分でやる防災 研究・普及所』所長 佐野 哲史（さの のりひと）

東京都出身。宮城県在住。07年中越沖地震に際し新潟県柏崎市で緊急支援に携わる。
11年東日本大震災では、全国のNPOと日本財団の合同プロジェクト「つなプロ」現地本部長に就任、宮城県全域の避難所調査と人材・物資のマッチングに従事。

同年『復興応援団』設立、農家・漁師等の創業支援と、企業研修等実施による交流人口拡大に取り組む。
14年以降は、ご縁のできた被災された方々への取材で得た知見を礎に、企業向け防災にも注力。19年台風19号水害の被災地・宮城県丸森町での経験を経て、20年『自分でやる防災 研究・普及所』を創立。
地震・津波・水害と、様相の異なる3つの大規模災害の現場に居続けている視座から、「自主防災」の重要性と、それを後押しする「実際に被災された方々のみが持ち得る知見」=「超リアル」の必要性を提言している。

《場づくり》



『自分でやる防災 研究・普及所』モデレータ 渡辺 エイジ（わたなべ えいじ）

株式会社EDUPLA代表取締役。

熊本県出身。一部上場企業、ベンチャー企業取締役を経て、花まる学習会グループに参画。

現在、お茶の水ソラシティアカデミアにて様々な「学びの場」をプロデュース。

主催者と参加者の垣根がない場作りを得意とする。

本研究・普及所においては、研究・普及パートナーとゲストの皆様とが共に学べる場作りを担う。

2児と犬の父/エッセンシャル・マネジメント・スクール特別研究員

自らも防災減災について学びたいと考え、本研究・普及所に参画している。

【概要】

「くるまざラボ」（「学び合い」形式のオンライン講座）

～災害時の「食事」「栄養バランス」「子育て」～と題して防災月間に開催いたします。

東日本大震災の発災直後の現場で活動していた担い手を講師に迎え、その時、現場にいた担い手だからこそ語れる、大規模災害の「超リアル」を、余すところなくお届けします。

講師の話を一方向的に「聞くだけ」「学ぶだけ」の仕立てではなく、講師×聞き手、参加者×参加者、参加者×講師など、多彩な形のコミュニケーションの時間を作り、最後に、ひとりひとりが実践可能な「防災対策」への落とし込みをします。

防災へのきっかけ作りとして、ご夫婦やお子様と一緒になど、ご家族での参加も大歓迎です！

【プログラム】

- ・ 現地の様子をライブ中継でお届け
- ・ 講師×聞き手のトークセッション
- ・ 参加者同士の簡単ふりかえりタイム
- ・ Q&A

※全体で1時間半の予定です。

【定員】

各回とも30名

【参加費】

定価1,500円／回（税込）

【申込方法】

『自分でやる防災 研究普及所』オンラインストアからお申込ください。

<https://jibun-bousai.stores.jp>

【注意事項】

- ・ 開催方法：ライブ配信(Zoom使用)
- ・ 事前にZoomのダウンロード&登録をお願いします。 <https://zoom.us/>
- ・ Zoomの使い方参照マニュアル（外部参考資料）
https://zoomy.info/manuals/what_is_zoom/
- ・ 開催前日までに、お申込時に入力いただいたメールアドレスへ参加方法とURLをご案内します。
- ・ パソコン、タブレット、Wi-Fi環境を推奨します。
- ・ イベント時の写真撮影・録画・録音はご遠慮ください。
- ・ 主催者による記録・広報等のため、イベントの写真撮影・録画・録音をさせていただきます。
- ・ 万が一、他のお客様のご迷惑になる行為、イベントを妨害する行為が見受けられた場合は、イベントの途中でも退席して頂きます。この場合、参加費の返金はいたしません。

【お問合せ】

自分でやる防災 研究・普及所(運営団体：一般社団法人 復興応援団)

メール：info@jibun-bousai.com

電話：090-1398-3510

担当：事務局長 吉高 美帆